

豊川市
高齢者福祉に関するアンケート調査
結果報告書（総括）

平成 26 年 6 月 4 日

豊川市 介護高齢課

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、豊川市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の見直しにあたり、40歳以上の市民の方々の生活実態や、高齢者福祉へのニーズ等の調査・分析を行い、計画に反映させるための基礎資料とし、今後の高齢者福祉の充実及び介護保険事業の推進のために活用することを目的とします。

2 調査設計

(1) 調査対象者及び抽出方法

| 調査区分 | 調査対象者 | 抽出方法 |
|------------|---------------------|-------|
| 若年者対象調査 | 40歳～64歳の市民（第2号被保険者） | 無作為抽出 |
| 一般高齢者対象調査 | 65歳以上の市民（第1号被保険者） | 無作為抽出 |
| 要介護認定者対象調査 | 要支援1～要介護3の認定者 | 無作為抽出 |

(2) 調査方法

| 調査区分 | 調査方法 |
|------------|----------------|
| 若年者対象調査 | 郵送配布・郵送回収による調査 |
| 一般高齢者対象調査 | |
| 要介護認定者対象調査 | |

(3) 調査期間

| 調査区分 | 調査期間 |
|------------|------------------|
| 若年者対象調査 | 平成26年1月20日～1月31日 |
| 一般高齢者対象調査 | |
| 要介護認定者対象調査 | |

3 回収結果

| 調査区分 | 配布数 | 回答数 | 回答率 |
|------------|-------|-------|-------|
| 若年者対象調査 | 1,600 | 753 | 47.1% |
| 一般高齢者対象調査 | 1,700 | 1,104 | 64.9% |
| 要介護認定者対象調査 | 1,500 | 794 | 52.9% |
| 合計 | 4,800 | 2,651 | 55.2% |

Ⅱ アンケート調査からみた総括

1 第5期計画の基本目標からの高齢者実態調査結果の評価

高齢者福祉計画及び介護保険事業計画は、すべての高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう「地域包括ケア」の推進と介護保険料の適正化を大きな柱に策定されることが求められています。これは今後「団塊の世代」が高齢期を迎えることで、ひとり暮らし高齢者や高齢夫婦のみの世帯も増加による、在宅での重度の要介護者等に対する支援の充実が課題となっていることや、認知症高齢者の増加、深刻化する高齢者虐待など昨今の社会情勢から地域における見守り体制の整備や、地域で認知症に関する正しい知識を共有することなどが課題として浮上していることが、その背景にあるためです。加えて、消費税の税率上昇による低所得層への配慮が一層求められる状況となっています。

そのような中、本市では平成23年度に第5期計画を策定し、その基本理念として「人生悠々・快適・安心ライフを楽しむまち」を掲げました。さらに計画の理念に沿った施策を展開するために、計画の基本目標として以下の3つを施策の方向として位置づけています。

- (1) 元気で悠々ライフを共創できるまちに
- (2) 住み慣れた地域で快適に暮らせるまちに
- (3) 安心して介護サービス等を利用できるまちに

そこで、第6期計画の策定に先立ち、高齢者実態調査結果について第5期計画の基本目標の視点から調査結果から評価を行うとともに、国が示す第6期計画の重点課題である「地域包括ケア」の実現や介護保険料の適正化のために、新たな課題を整理します。

2 元気で悠々ライフを共創できるまちに

基本目標1は「人生を楽しむ」という視点から設けられていますが、これは高齢期を心豊かに暮らすための準備や計画、健康で生きがいやふれあいのある暮らし、好きな仕事や学習の継続などを可能にすることが広い意味での介護予防につながるためです。

●健康状態について

健康状態についてみると、一般高齢者と若年者とも罹患している病気で最も割合が高くなっているのは「高血圧」となっています。また、認定者に介護・介助が必要になった主要原因を尋ねたところ、「高齢による衰弱」が最も高く、ついで「高血圧」「認知症」の順となっていますが、「高血圧」「認知症」の割合は前回調査よりも低くなっています。「認知症」は認定者でのみ高い割合を示しています。

本市では一般高齢者について日常生活圏域ニーズ調査のうち、「運動器の機能」「認知症予防」「認知機能」の3つを判定しています。「運動器の機能」では11.5%の人が運動にリスクありと判定されており、リスク者と非リスク者の回答状況を比較すると「階段を手すりや壁をつたわずにのぼっていますか」「椅子に座った状態から何も捕まらずに立ち上がっていますか」「いつも転ぶのではないかと不安ですか」という設問において大きな差異がみられました。もの忘れなどを判定する「認知症予防」では30.2%の人がリスクありと判定されており、リスク者と非リスク者では「今日が何月何日か分からないときがありますか」という設問において大きな差異がみられました。「認知機能」では障害があると判定されるレベル2以上の人は46人いました。

認定者も「認知症予防」「認知機能」の2つを判定しています。「認知症予防」では71.0%の人がリスクありと判定されており、一般高齢者と比較して非常に高い割合を示しています。判定の根拠となる3つの設問いずれでも非リスク者と比較して大きな差異がありました。「認知機能」ではレベル2以上の人は386人いました。

健康について関心がある事柄をあげてもらったところ、一般高齢者と若年者では相違がみられました。一般高齢者では「ヒザ・腰・肩などの関節の健康」が最も高く、「健康づくりのための運動」「目の健康」が続いています。若年者では「肥満予防」が最も高く、これに「ヒザ・腰・肩などの関節の健康」が続いています。

課題の整理

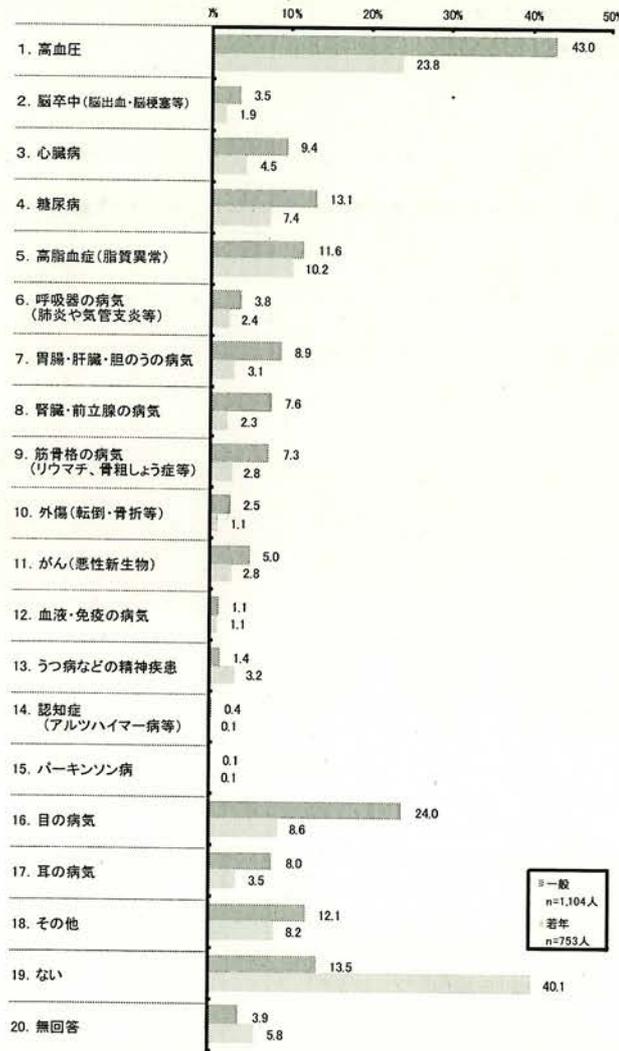
「高血圧」はどのアンケートでも高い割合を示しており、一般高齢者と若年者における「高血圧」の高い罹患率がそのまま認定者への移行理由となっていると思われます。しかしながら高齢者の健康に関する関心事では高血圧など生活習慣病への関心は高いとはいえません。

あなたの健康状態について

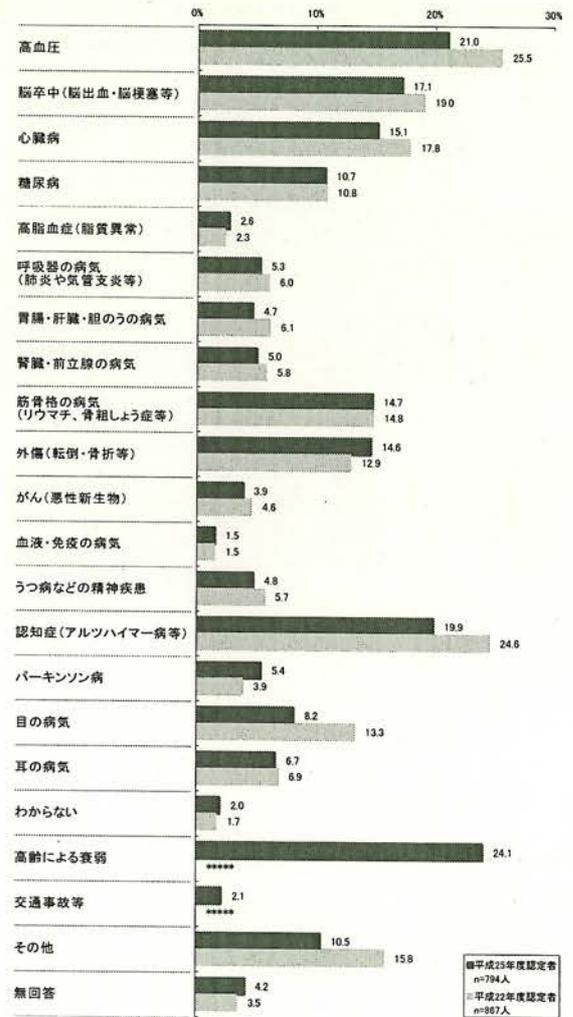
問 現在、治療中、または後遺症のある病気はありますか。(一般高齢者)

問 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(認定者)

【一般高齢者】



【認定者】



■一般
n=1,104人
□若年
n=753人

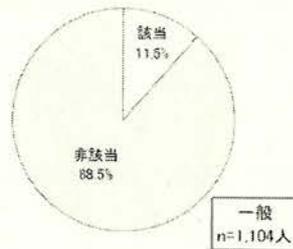
■平成25年度認定者
n=794人
□平成22年度認定者
n=867人

運動機能について

<運動器の機能向上>

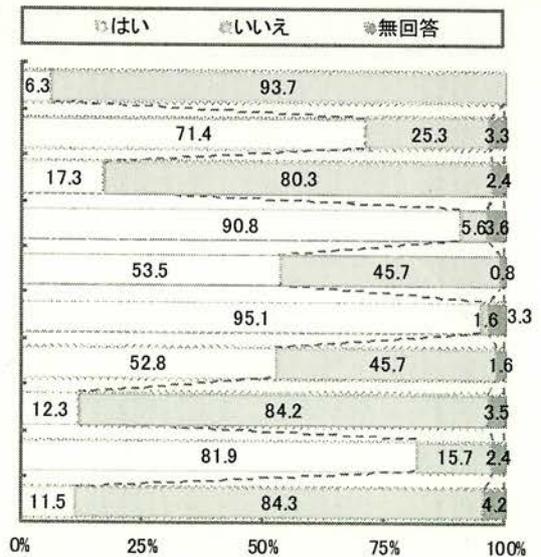
(判定結果)

【一般高齢者】



(リスク者/非リスク者割合)

| 質問項目 | 該当 | 非該当 |
|--|--------|--------|
| ①階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか n=1,104人 | n=127人 | n=977人 |
| ②椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか n=1,104人 | n=127人 | n=977人 |
| ③15分位続けて歩けますか n=1,104人 | n=127人 | n=977人 |
| ④この1年間に転んだことがありますか n=1,104人 | n=127人 | n=977人 |
| ⑤いつも転ぶのではないかと不安ですか n=1,104人 | n=127人 | n=977人 |



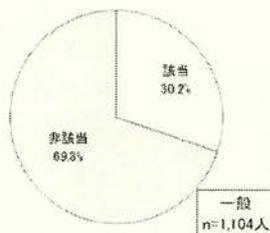
認知機能について

【一般高齢者】

< 認知症予防・支援 >

(判定結果)

【一般高齢者】

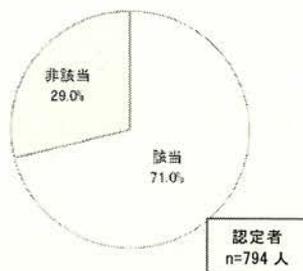


(リスク者/非リスク者割合)

| 質問内容 | 該当 n | 回答割合 (%) | | |
|--|------------|----------|------|-----|
| | | はい | いいえ | 無回答 |
| ① 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか n=1,104人 | 該当 n=333人 | 42.0 | 55.0 | 3.0 |
| | 非該当 n=771人 | 95.5 | 4.5 | |
| ② 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか n=1,104人 | 該当 n=333人 | 75.7 | 22.2 | 2.1 |
| | 非該当 n=771人 | 98.2 | 1.8 | |
| ③ 今日が何月何日か分からない時がありますか n=1,104人 | 該当 n=333人 | 67.3 | 32.4 | 0.3 |
| | 非該当 n=771人 | 96.9 | 3.1 | |

(判定結果)

【認定者】



(リスク者/非リスク者割合)

| 質問内容 | 該当 n | 回答割合 (%) | | |
|--|------------|----------|------|-----|
| | | はい | いいえ | 無回答 |
| ① 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか n=794人 | 該当 n=564人 | 63.3 | 34.2 | 2.5 |
| | 非該当 n=230人 | 81.3 | 18.7 | |
| ② 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか n=794人 | 該当 n=564人 | 34.4 | 64.0 | 1.6 |
| | 非該当 n=230人 | 85.7 | 14.3 | |
| ③ 今日が何月何日か分からない時がありますか n=794人 | 該当 n=564人 | 70.9 | 28.2 | 0.9 |
| | 非該当 n=230人 | 84.3 | 15.7 | |

●認知症について

認知症自体については、一般高齢者・若年者・認定者とも「ある程度知っている」という回答が最も高くなっています。ただし、認知症の人の介護経験は高くはなく、経験・体験に由来する知識は少ないといえます。

認知症の人の介護経験者に介護で困難を感じる点をあげてもらったところ、「ストレスなど精神的な負担」が一般高齢者・若年者・認定者とも最も高く、肉体的な負担を上回っています。

周囲に認知症を疑う人がいた場合の相談先については、一般高齢者・若年者・認定者とも「病院・診療所」が最も高く、次いで「高齢者相談センター」の順となっています。認定者については、一般高齢者や若年者よりも接する機会の多いケアマネジャーを挙げる割合も高くなっているのが特徴的です。

課題の整理

認知症自体についてはある程度の知識を持っていますが、経験や体験としては少ないため、知識と現実とのギャップに戸惑わないような周知活動が必要です。

認知症の介護では精神的な負担を感じる人が多いことから、まず精神的側面からフォローする仕組み作りが求められています。

また、認知症に関する相談先として病院を挙げる人が多いことから、今後医療機関と他の関係機関（市役所・高齢者相談センター・ケアマネジャー・事業所）との連携強化が求められます。

●地域活動や生きがいについて

収入のある労働をしているかどうかという質問に対し、一般高齢者では63.6%の人が「働いていない」と回答しています。働いている理由としては「経済的に必要だから」が5割弱を占めて最も高くなっています。

経済的状况をみると、「苦しい」「やや苦しい」を合わせた回答は56.2%で、前回調査の54.0%よりも2.2ポイント上昇しています。

生きがいを感じていることについて、一般高齢者と若年者では、「趣味の活動」と「友人や気のあった仲間との交流」が上位を占めています。認定者では、「趣味の活動」と「友人や気のあった仲間との交流」に加えて「散歩やスポーツなど身体を動かすこと」も割合が高くなっています。一般高齢者・若年者と認定者で大きく異なるのは、「特にない」という回答割合で、一般高齢者・若年者は1割未満なのに対し、認定者では2割強となっています。

課題の整理

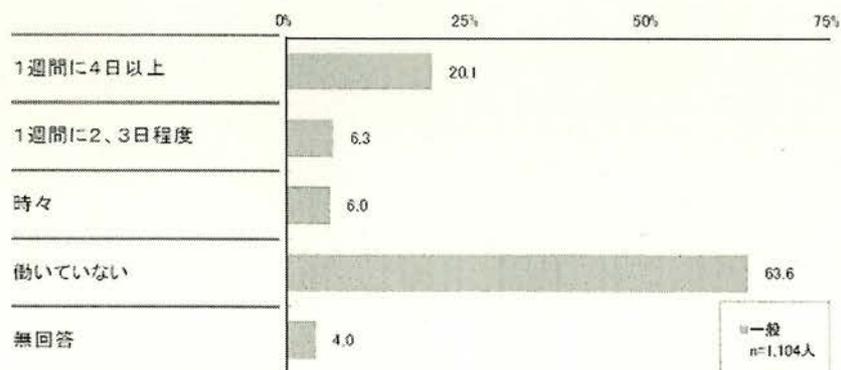
定年退職した後の、生きがいはその人の心身の健康維持にとって非常に重要な要因となるばかりでなく、社会への参加を維持することで孤立した高齢者を作り出さないことにもつながります。

本市では趣味や友人との交流を楽しむ人たちがいる一方で、「特にない」という人の回答の多さが目立っています。また、老人クラブや祭りなどの地域の行事への参加についても関心が薄くなっています。

今後はまず「特にない」と回答した高齢者の生きがい創出を心がけ、次いで老人クラブや地域の行事といった高齢者同士や地域で支え合う方向へと関心を向けてもらうようにしていく必要があります。これは高齢者自身が周囲から必要とされていると思える機会を増やしていくことにもつながり、精神的な健康の向上にも資することになります。

問 あなたは現在、収入のある労働をどのくらいしていますか。

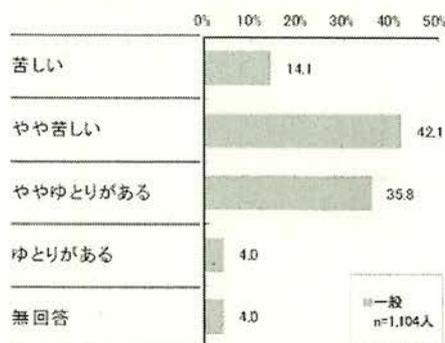
【一般高齢者】



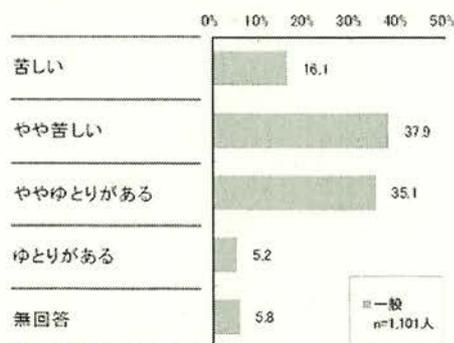
問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じますか。

【一般高齢者】

平成 25 年度



平成 22 年度



3 住み慣れた地域で快適にくらせるために

基本目標2は日々の暮らしの舞台とも言える身近な地域を、日常生活圏域として設定し、各圏域に気軽に相談できる窓口や、健康や生活機能を維持・向上するための機会を設けるとともに、地域ならではの支え合いやふれあいの活動を拓けていくことと定められています。

●高齢者相談センター機能の充実

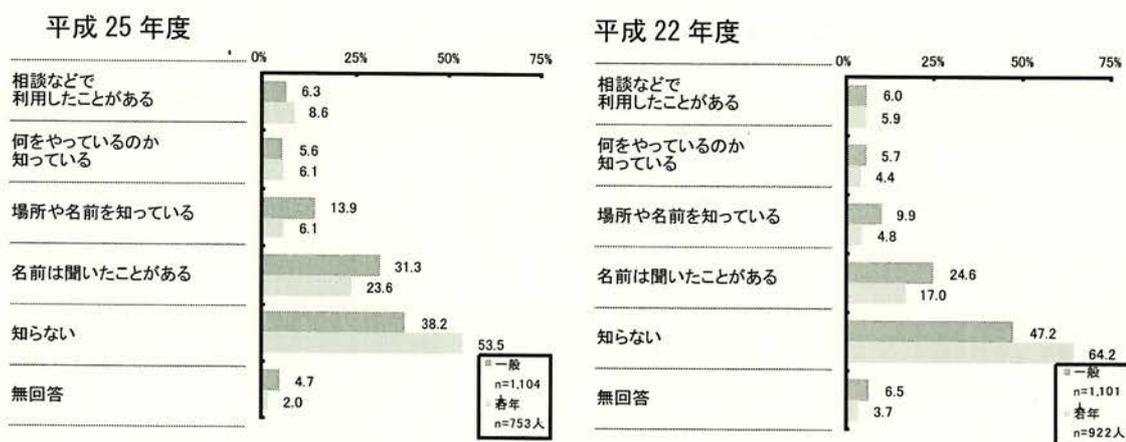
高齢者相談センターの認知度について尋ねたところ、一般高齢者・若年者ともに「知らない」という回答割合が最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」という順に高くなっています。ただし、前回調査と比較すると一般高齢者・若年者とも「知らない」という回答割合は低く、「名前は聞いたことがある」という回答割合が高くなっており、周知が着実に進んでいるといえます。

課題の整理

高齢者相談センター及びその業務についての認知度は、前回と比較して上がり、周知されてきたことがうかがえます。ただ、「一般高齢者」に比べ「若年者」の「知らない」の割合は前回調査同様高く、今後は「若年者」を重点的に周知していく必要があります。

問 あなたは、高齢者の総合相談窓口である高齢者相談センター（地域包括支援センター）について知っていますか。

【一般高齢者】



●介護予防について

介護予防教室への参加意向に関する質問に対し、一般高齢者では「現在は参加していないが、今後参加したい」という回答割合が高くなっています。参加を希望する種類については「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」が最も高く、次いで「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」が続いています。

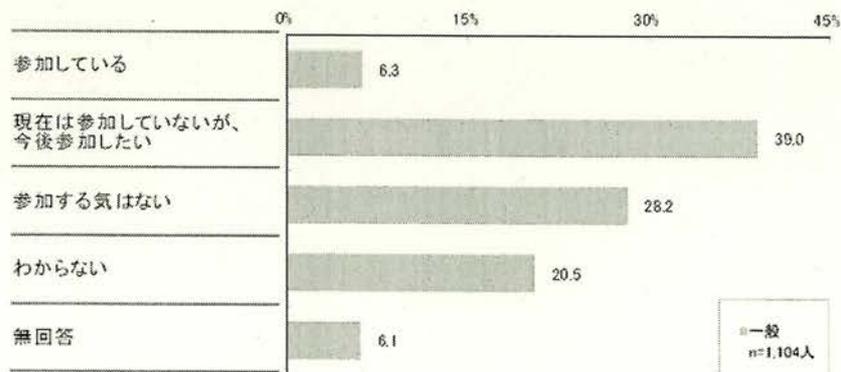
教室への参加を希望しない人にその理由を尋ねると、「健康状態や体力に不安がないから」という回答が多くを占めました。

課題の整理

介護予防教室への参加意向は4割弱あり、運動や認知症の教室が希望されています。特に、認知症は今後高齢者の増加に比例して増加する可能性が高いため、認知症にならないための介護予防教室は充実させていく必要が認められます。

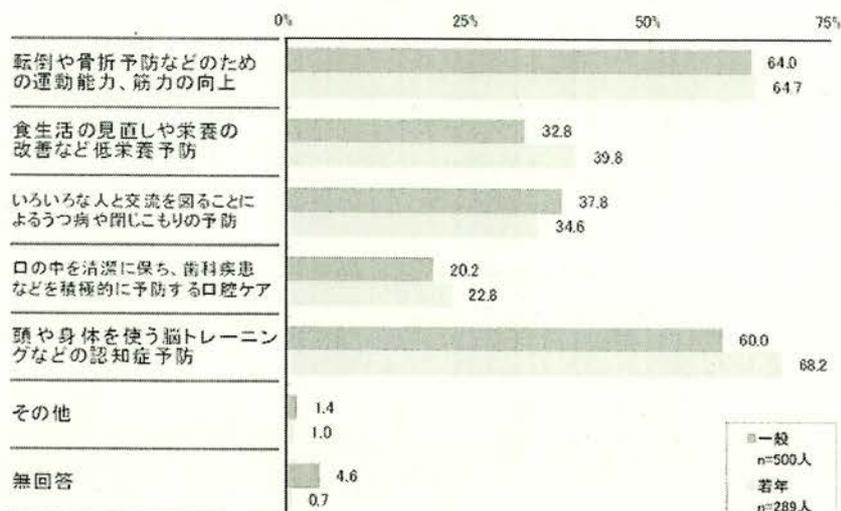
問 介護予防のための教室等に参加したいですか。

【一般高齢者】



問 次にあげる介護予防事業のうち、参加したいと思うものは何ですか。

【一般高齢者】



● 家族介護について

家族介護の経験に関する質問に対し、一般高齢者・若年者ともに「今まで介護の経験はない」という回答割合が高くなっています。介護経験者について性別で見ると、男性よりも女性の方に経験した人が多く、介護の役割に性別で偏重が生じていることがわかります。

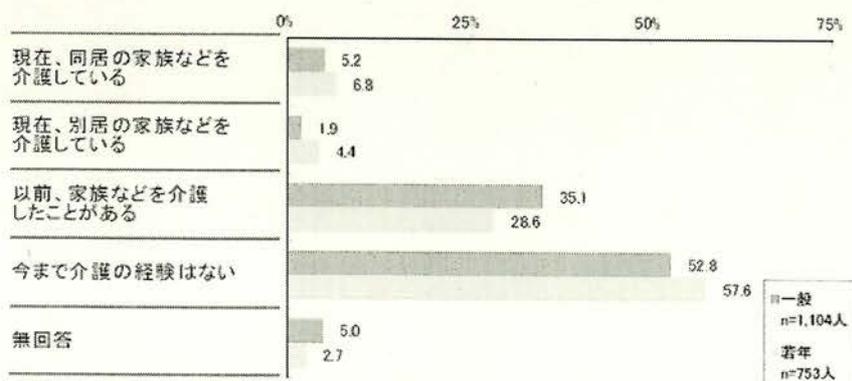
介護する家族に必要な支援としては、一般高齢者・若年者・認定者ともに「経済的負担軽減への支援」が最も高くなっています。

課題の整理

家族による介護は以前より女性による介護が大きな比重を占めてきましたが、本市でも同様の傾向がみられます。経済的理由から女性の就業率が上がる中、女性にのみ介護の負担を押しつけることは難しくなっています。今後はワーク・ライフ・バランスに配慮した家族介護のあり方を提示していく必要があります。

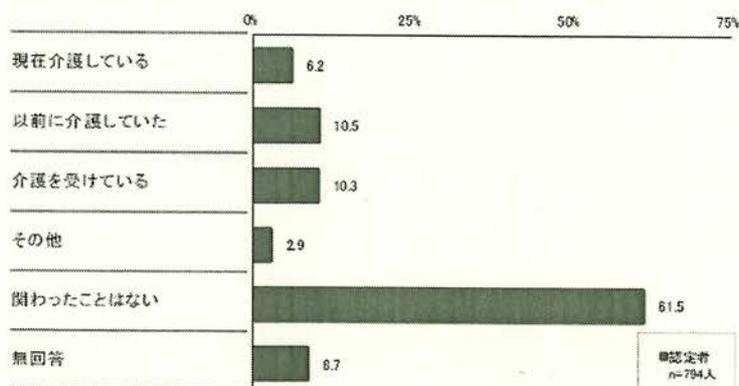
問 あなたは、家族などの介護をした経験がありますか。

【一般高齢者・若年者】



問 認知症の方の介護をしたことがありますか。

【認定者】

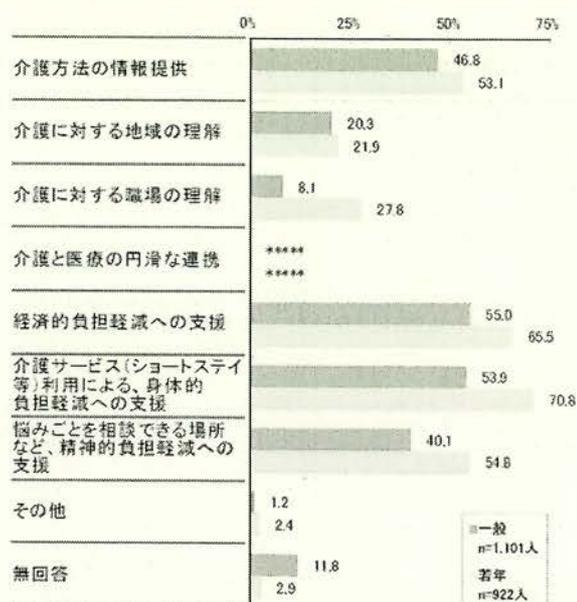
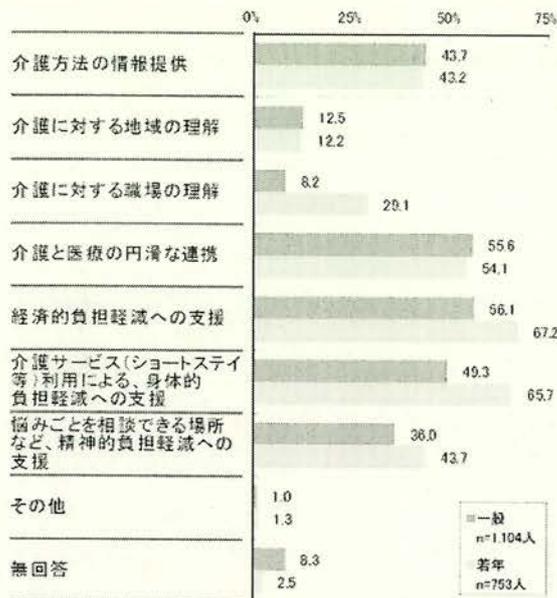


問 在宅で介護をする家族には、どのような支援や理解が必要だと思いますか。

【一般高齢者・若年者】

平成 25 年度

平成 22 年度



●高齢者虐待の防止について

高齢者虐待が疑われる場合の相談先について、一般高齢者・若年者・認定者ともに「高齢者相談センター」が最も高く、ついで「市役所」「警察」の順となっています。

虐待についてどう思うかという質問に対し、「虐待する人の気持ちが理解できない」という回答が一般高齢者・若年者・認定者ともに最も高くなっていますが、一般高齢者では「自分がされる側になってしまうかもしれない」という回答がこれに続き、若年者では「自分がする側になってしまうかもしれない」という回答が続いています。

また、虐待を防止するために必要な処置についてみると、一般高齢者・若年者・認定者ともに「介護疲れを軽減するためのサービスの充実」の回答割合が高く、介護疲れからくる虐待衝動をサービス充実により回避することが求められています。

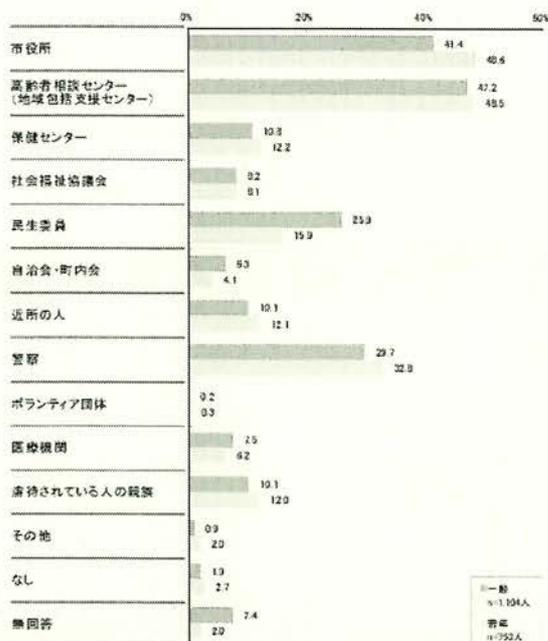
課題の整理

今回の調査結果においては、虐待相談先として、「高齢者相談センター」という回答が最も高かったのは、日頃接する機会が多いことと、信頼を地域から得ていることが考えられます。

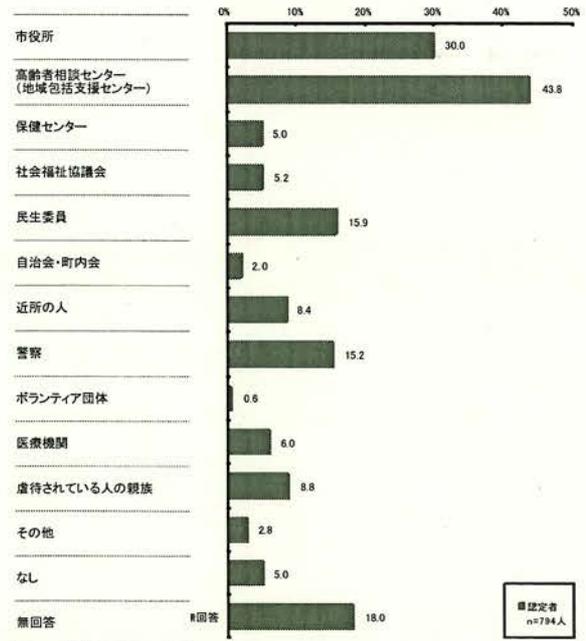
住民からは介護する家族へのケアやフォローが求められており、今後は「高齢者相談センター」が中心となってそれに当たる必要があるといえます。

問 あなたは、「高齢者虐待」を疑った時に、まずどこに相談しますか。

【一般高齢者・若年者】

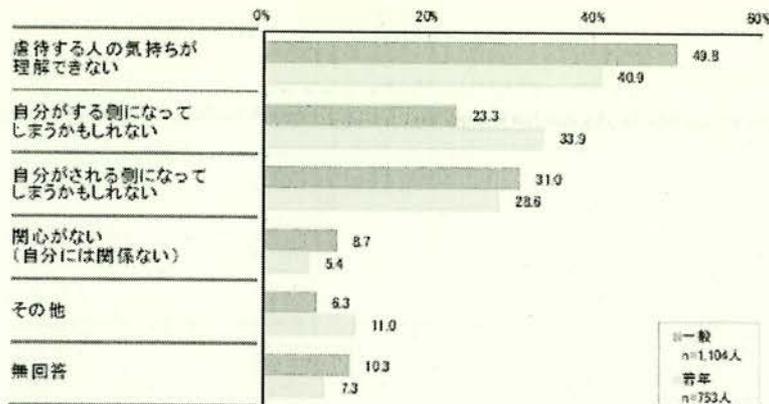


【認定者】



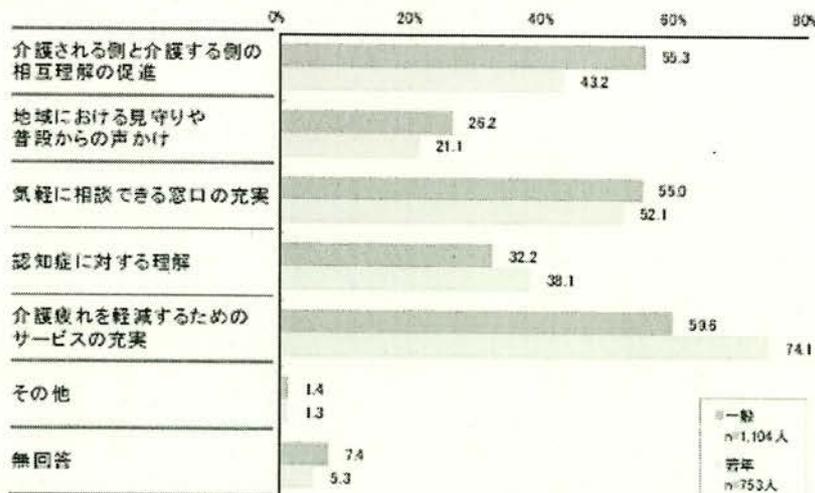
問 あなたは、高齢者虐待についてどう思いますか。

【一般高齢者・若年者】



問 あなたは、高齢者虐待を防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。

【一般高齢者・若年者】



4 安心して介護サービス等を利用できるまでに

基本目標3では、年齢を重ね、介護や医療の必要が増しても、介護保険サービス等の活用によって安心して暮らせるよう、必要な施設・サービス等の供給体制を整え、同時に制度が安定的に運営できるよう、事業費に見合う財源の確保を図るなど、制度全般にわたる信頼性・持続性の向上を定めています。

●介護サービスについて

認定者における介護サービスの利用状況をみると、「利用している」が7割強、「利用していない」が2割弱となっています。

利用されているサービスで最も多いのは「通所介護」で、次いで「福祉用具貸与」「訪問介護」の順となっています。その満足度についてみると、いずれも「満足」「大体満足」を合わせた8割強となっています。

介護サービスを「利用していない」人にその理由を尋ねると、「自分で生活できるから」「家族が介護してくれるから」が多数を占めていました。

介護サービスについて不満な点を尋ねると、「サービス利用のための費用負担が大きいため」「サービス内容が予想していたものと違っていたから」の順となっています。

介護保険料とサービスのバランスについて尋ねると、「介護サービスが充実するならば、保険料が高いのは仕方がない」の回答割合が最も高く、次いで「わからない」の順となっています。

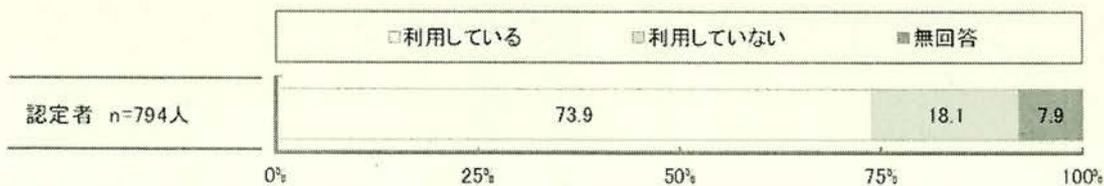
課題の整理

介護サービスの利用は、「通所介護」「福祉用具貸与」「訪問介護」の3つが上位を占めており、その満足度は概ね高いといえます。しかし、サービスを利用していない人は経済的負担から利用しない傾向がみられます。家族介護の箇所での経済的負担軽減を求める声が大きかったことと合わせて考えると、今以上の利用を推進するためには経済的な負担軽減を検討する必要があります。

しかし、保険料とサービスのバランスについては「介護サービスが充実するならば、保険料が高いのは仕方がない」という回答が多数を占めており、このことから経済的負担とサービスについては市民の声が二極化している現状がうかがえます。

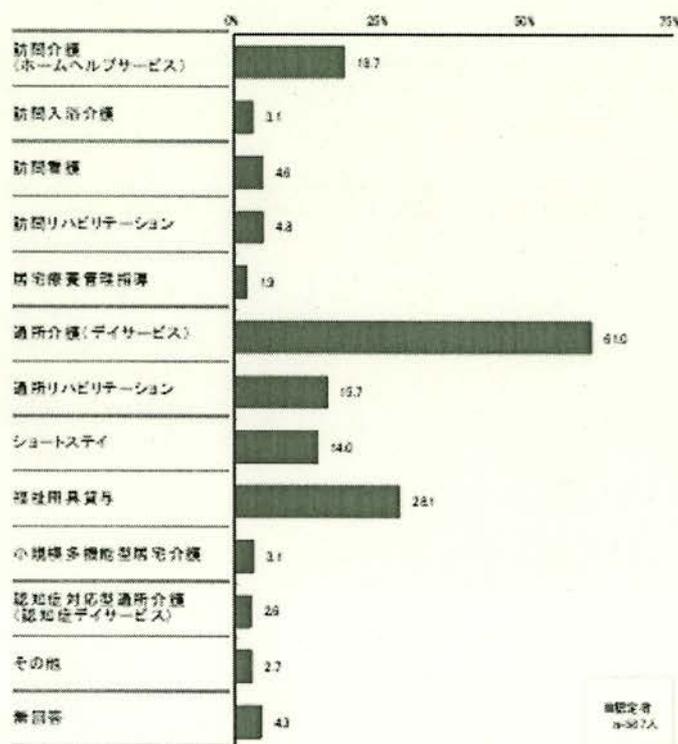
問 現在、介護サービスを利用していますか。

【認定者】



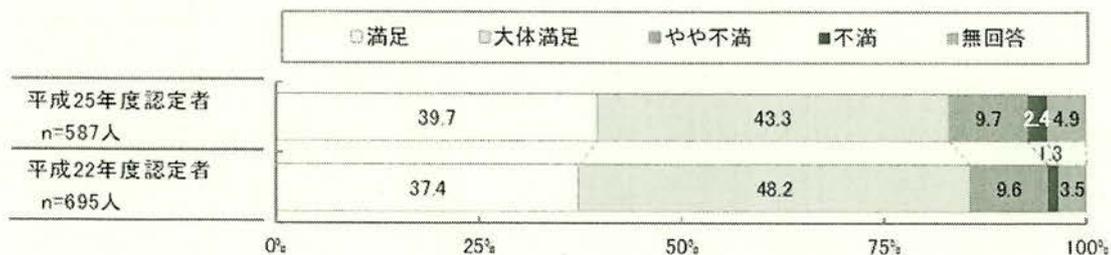
問 現在利用しているサービスを教えてください。

【認定者】

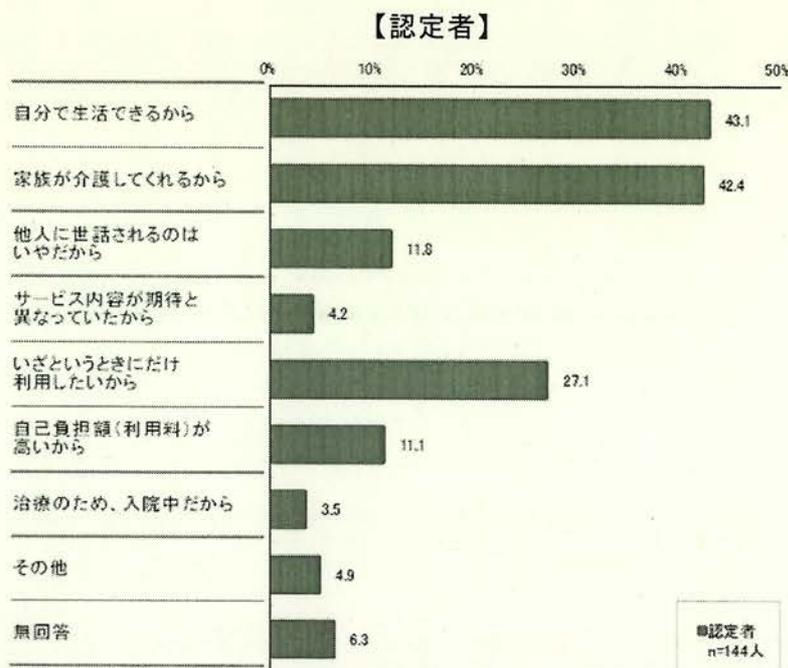


問 現在利用しているサービスについて、あなたは満足していますか。

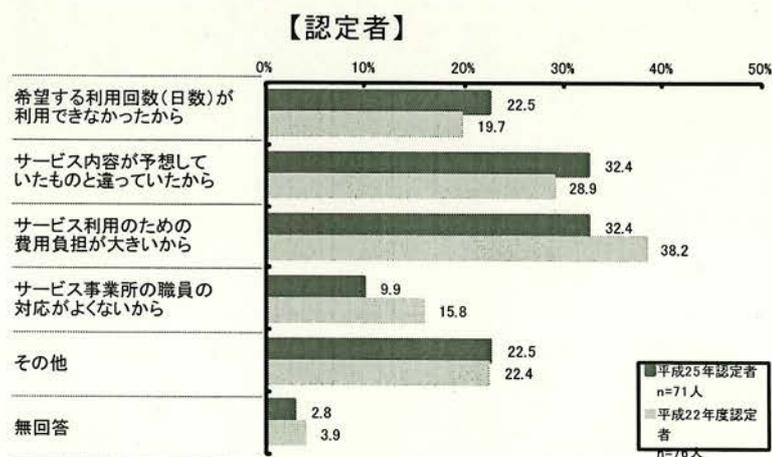
【認定者】



問 サービスを利用していない理由を教えてください。



問 満足していない理由は何ですか。



問 介護保険の保険料は、市全体で使われた介護サービスの量で決まります。あなたは、保険料の負担と介護サービスについてどう思いますか。

